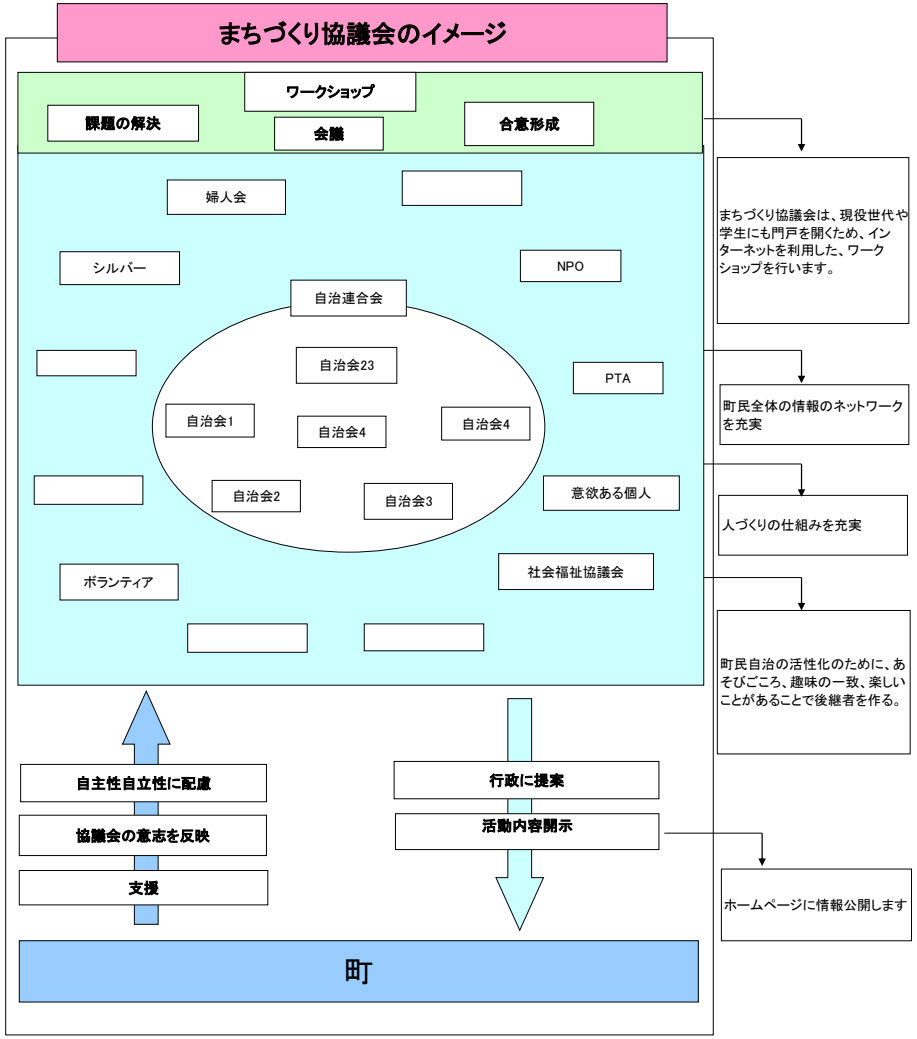
まちづくり協議会イメージ

個性的で心豊かな地域をつくる。



ワークショップとは、参加者一人一人が主役となり、協働体験を通じてチームワークの育成と合意形成する場となります。

まちづくり協議会の構造

1 コミュニティーのベースは各自治会になります。
2 地域で活動している多様な団体・個人で構成します。
3 まちづくり協議会は、上牧町に1つだけ立ち上げます。
4 まちづくり協議会は、ワークショップを通じて町民自身が納得した問題解決策、活動方針の合意形成を行い、まちづくりを支えます。
5 まちづくり協議会は、広く門戸を開くきます。
6 組織及び運営等に関する事項は別に定める。

まちづくり協議会の構成の留意点

1 地域が広いのでまとめるのは難しい。
2 PTA、自治連合会、ボランティア、社会福祉協議会等つないでいける組織があればよい。
3 各種の団体の代表者がすぐ変わってしまうので物事が前に進みにくい。
4 声かけができる場があればよい。
5 話し合いの場があればよい。
6 地域特性があり合わせていかなければいけない。
7 世代のことも考える必要がある。
8 23区割り⇔全域　それぞれいろいろな特徴がありまとめるのは難しい。
9 フィードバックがうまくいかなければ、尻すぼみ協議会になる。
10 まちづくり協議会自体の町からの予算は見込まない、各種団体で処理できない事業についてまちづくり協議会が予算を受けて実行する場合も考えます。

参照

以下のような課題を解決するために、まちづくり協議会を活用する。

ワークショップを通して、町民どうし参画、協働の話し合いができます。
町政改善に関する町民の声が取り上げられるように、まちづくり協議会で合意した意見は行政に提案します。
町民の手で町を元気にするにはどうするか？についても協議します。
情報共有、情報公開のシステムとその保障がなされていること。
あいさつをする励行することで、町民どおしのつながり、防犯に役立てる。
防犯防災に強い町づくりのために多様な団体及び個人から、ノウハウを提供していただいて、情報共有できる場します。
町に関心を持てる仕組みはどういうことがあるか協議する。
上牧町の良いところをしらせる。
一次産業を助け地産、地消にもっと積極的になる。
各種団体の活動は活発、そこに参加していない人に参加をよびかける特色ある取り組みができないか。
上牧町として、他町に勝ること、物 遅れていること、物を協議する。
産業も文化も歴史も若い世代は今一わからず、ないと思っている。
生活文化の伝承をする。
貸し農園、学校へPR、遊休地の利用及び食育に役立てる。
上牧町の歴史文化を掘り出す。
ささゆりウォークへの参加を促す。
ベッドタウン(昼、都心　夜、上牧町）サラリーマンリタイアする人が増加、リタイア世代の生き甲斐の協議をする。
バスの便が多くなって公共交通が充実して欲しいが難しく、カーシェアリング等の協議をする。
町全体の美化のため、年一度町民での町の一斉清掃の協議をする場としまちづくり協議会を利用する。
中高生〔青年部の立ち上げ〕を協議する場としまちづくり協議会を利用する。
町民がゴミ問題少なくする方法、アイデアの意見交換の場としまちづくり協議会を利用する。